

**2011年1月改訂(第7版)
*2007年11月改訂

日本標準商品分類番号	871319
*承認番号	21900AMX01640
*薬価収載	2007年12月
販売開始	1987年10月

貯法等:【取扱い上の注意】の項参照
*使用期限:外箱に表示の使用期限内に使用すること(溶解後の使用期限は【取扱い上の注意】の項参照)。

老人性白内障治療剤
***カタリン®K点眼用0.005%**
*CATALIN-K FOR OPHTHALMIC 0.005%
ピレノキシン点眼剤

【組成・性状】*

顆粒 (1包 (87mg))	成分・含量 (1包(87mg)中)	ピレノキシン0.75mg
	*添加物	タウリン、ホウ酸、ホウ砂
	色	だいたい黄色
溶解液 (15mL)	添加物	ホウ酸、イブシロン-アミノカ ブロン酸、パラオキシ安息香酸 メチル、クロロブタノール、塩 化カリウム
	色	無色澄明
添付の 溶解液に 溶解後	成分・含量 (1mL中)	ピレノキシン0.05mg
	剤形	水性点眼剤
	色	黄色澄明
	pH	4.5~6.5
その他		無菌製剤

【効能・効果】

初期老人性白内障

【用法・用量】

顆粒を溶解液に用時溶解し、1回1~2滴、1日3~5回点
眼する。

※顆粒の溶解方法については裏面をご参照ください。

【使用上の注意】**

**1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる
調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	眼瞼炎、接触皮膚炎
眼 ^{注)}	びまん性表層角膜炎、結膜充血、結膜炎、 刺激感、痒痒感、霧視、眼脂、流涙、眼 痛、眼の異常感、眼の異物感

注)発現した場合には、投与を中止すること。

2. 適用上の注意

- (1)投与経路:点眼用により使用すること。
- (2)投与時:点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。

【薬効薬理】^{1~3)}

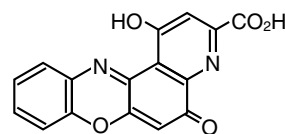
キノイド学説によると、白内障の成因は水晶体の水溶性蛋白が、
有核アミノ酸(トリプトファン、チロジン等)の代謝異常で生じ
るキノイド物質によって変性し不溶性化するためといわれている
が、ピレノキシンはキノイド物質のこの作用を競合的に阻害
して、水晶体の透明性を維持させることにより白内障の進行を
抑制する(モルモット、*in vitro*)。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名:ピレノキシン(Pirenoxine)〔JAN〕

化学名:1-Hydroxy-5-oxo-5H-pyrido[3, 2-a]phenoxazine-
3-carboxylic acid

構造式:



分子式: C₁₆H₈N₂O₅

分子量: 308.25

性状:ピレノキシンは、黄褐色の粉末で、においはなく、味は
わずかに苦い。

ジメチルスルホキシドに極めて溶けにくく、水、アセ
トニトリル、エタノール(95)、テトラヒドロフラン又
はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点:約250°C(分解)

【取扱い上の注意】

注意:本剤は、金属イオンの混入によって色調が変化するので
注意すること。

貯法:1.室温保存

2.溶解後は、冷所に遮光して保存し、3週間以内に使用
すること。

【包装】

(点眼液用顆粒87mg・溶解液15mL)×1
(点眼液用顆粒87mg・溶解液15mL)×10
(点眼液用顆粒87mg・溶解液15mL)×50

【主要文献】

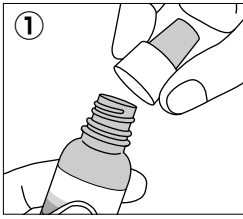
- 1)荻野周三:日本眼科学会雑誌, 59, 666, 1955.
- 2)荻野周三:日本医事新報, 第1732号, 13, 1957.
- 3)荻野周三:臨床眼科, 11, 272, 1957.

【文献請求先】*

〈文献請求先・製品情報お問合せ先〉

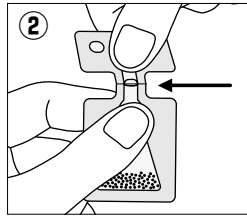
千寿製薬株式会社 カスタマーサポート室
〒541-0046 大阪市中央区平野町二丁目5番8号
TEL ☎ 0120-06-9618 FAX 06-6201-0577
受付時間 9:00~17:30(土、日、祝日を除く)

*** 顆粒の溶解方法**

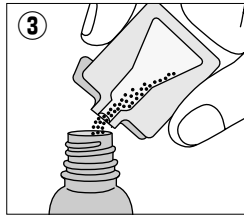


溶解液容器の白色の大キャップをとりはずす。その際、瓶口部に溶解液の膜が張っている場合は、膜が無くなるまで、瓶の胴部を軽く押える。

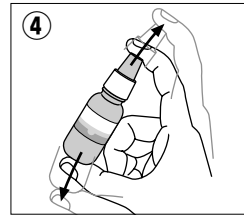
（顆粒パックの開封口が膜に触れると、顆粒が湿って出にくくなりますので、ご注意ください。）



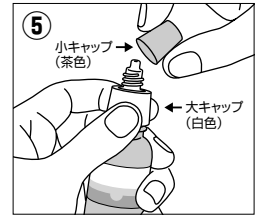
顆粒を大きい方の袋に集め、矢印付近の切り込み線に指をかけないようにして、図のように折る。



顆粒に手を触れないよう注意し、パックから直接溶解液に入れる。



白色の大キャップをかたくしめ、よく振って顆粒を溶解する。

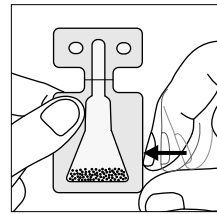
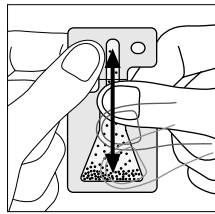
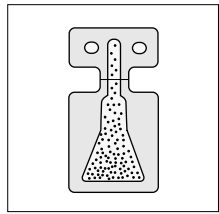


点眼する時は、白色の大キャップはそのままにして茶色の小キャップのみをはずし、容器の先端が目につれないように注意して点眼する。

（誤って白色の大キャップをはずしますと、液がこぼれますので、ご注意ください。）

このときパックに顆粒が付着していないか確認してください。

運搬時の振動等により、パックに静電気が生じ、顆粒がパックの内面に付着して湿っているように見えることがあります。このような時は、図のようにパックを指で擦り静電気を除去した後、パックの横を指で軽く叩くと付着が無くなります。



点眼される際のお願い

冷所に保存していた点眼液を取り出した後すぐに点眼すると（特に残りの薬液が少ない場合）、容器の中の冷たい空気が手で温められて膨張し、薬液が連続して落ちる場合があります。点眼する前にしばらく容器を手で温めてから点眼すると、1滴ずつ点眼できます。

